

いい川づくりの目標(基本理念) 「人・自然・文化のハーモニー! 奏でつづける遠山川」

目標に込めた思い

遠山川は、「人(地域住民やこの地を訪れる人)」、「自然(山里、周辺環境、河川環境)」、「文化(歴史、祭祀、街道、城下町)」を、ゆつたりと抱いてきた、唯一無二の中心的存在です。
 人・自然・文化を「音符」に例え、遠山川という「五線譜」に、今も、そしてこれからも、すばらしい「ハーモニー」を「奏で」ていけるよう願いを込め、目標(基本理念)としました。
 さらに、「奏でつづける」には、将来にわたって人々の安全・安心を「護る」、自然環境を「護る」(環境・景観の保全)、文化・伝統を「守る」(伝承)という意味を込めています。

目標の展開

目標のキーワード	川づくりの目的・目標	取り組みの基本方針
人 自然 文化	◇ 自然・環境・景観・動植物 (自然・景観の保全) ◇ 観光・文化・歴史・利用 (地域の文化の発展と伝承)	・ 良好な景観や環境の保全と創出 ・ 自然で変化に富む流れの回復 ・ 近づき親しみやすい水辺空間の創出 ・ 河川空間の有効利用(高水敷の活用) ・ 周辺環境との調和、河畔林の利用
ハーモニー (調和・協働)	◇ 施設・活動 (維持管理・モニタリング)	・ 河川内の良好な空間の保全 ・ 河川の状態や施設の点検、維持管理 ・ 多様な主体と地域の参加、参画、協働
奏で つづける	◇ 防災、治水 (人々の安心な暮らしを護る)	・ 護岸未整備区間の解消 ・ 河床の復元と安定化 ・ 管理、利活用のための通路

遠山川の今とめざす姿



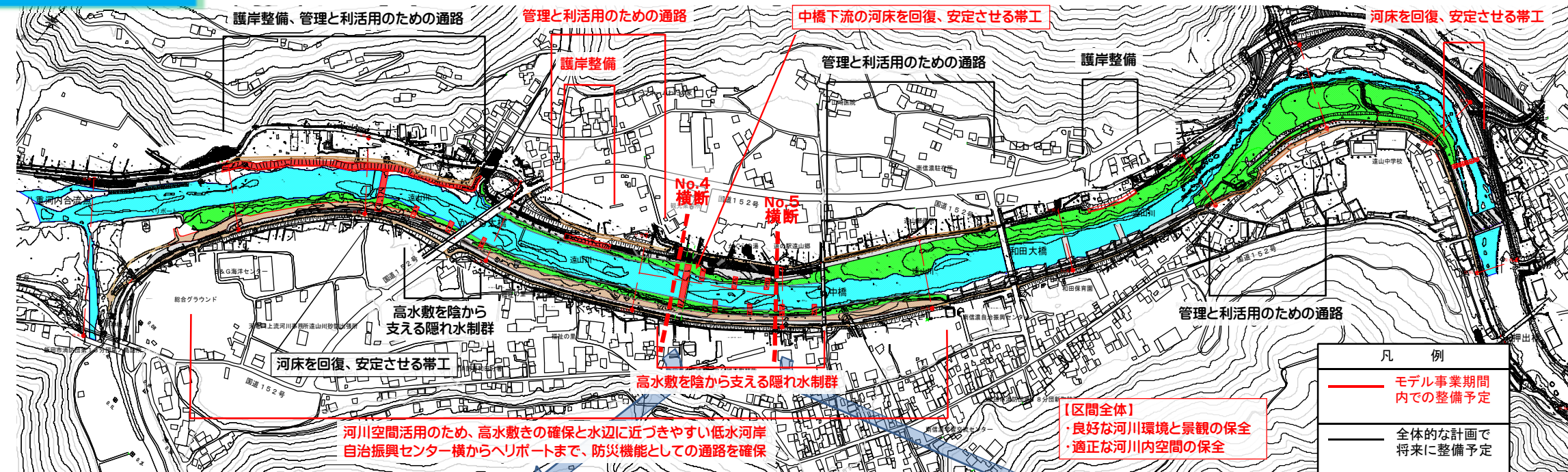
長野県が進める「信州いい川づくり」モデル事業について

- 【事業趣旨】
 最新の多自然川づくりの考え方を取り入れる
 地域の特色を活かした河川改修の実施
- 【具体的な整備方針】
 局所的なネック箇所の解消
 平成24年度から概ね5ヶ年で実施
 他のモデル河川：一級河川湯川(御代田町)、一級河川保福寺川(松本市)

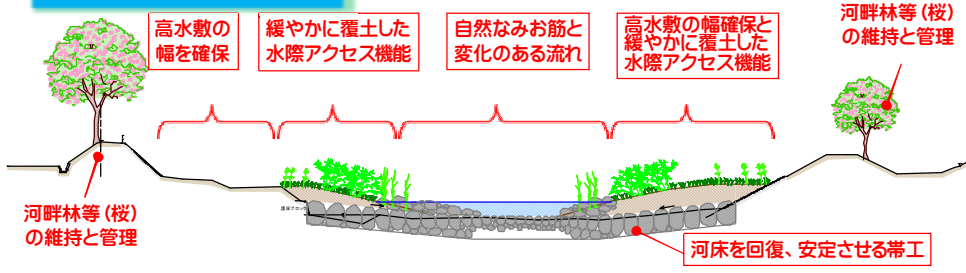
基本計画ができるまでの取り組み

- ◇ 地域の特色を活かした目標づくり、計画づくり
 ○ 「遠山郷いい川づくり」会議の開催(全6回)
 ・ 地域の代表者の皆様で構成(委員19名、アドバイザー5名)、川に関する情報、意見、発想(アイデア)をいただいたほか、意見交換を行いながら情報収集を行い、目標や基本計画の策定をおこないました。
- 子どもからの提案、参画
 ・ 和田保育園の年長さん、和田小学校の全校生徒さんからは、どんな遠山川にしたいか、絵、作文、アンケートなどとして提案いただき目標の参考としました。また、遠山中学校の2年生の皆さんには、目標設定のお手伝いをさせていただきました。
- ◇ 最新の多自然川づくりの考え方について専門家へ相談
 ○ 独立行政法人土木研究所「自然共生研究センター」へ技術相談(H25.3.1)
 ・ 第5回「遠山郷いい川づくり」会議の基本計画案を基に技術相談ご同い、河川の特長に関するアドバイザーの他、施設計画やその留意点に関する助言をいただきました。

計画平面図(全体)



No.4横断スケッチ



計画のポイント

- 河床の回復と安定のため効果的な箇所に最低限の帯工を設置
 帯工は、景観や本来のみお筋を残すよう自然石などを活用
- 河川の安全度を確保した上で、空間を利活用できる高水敷を確保
 軽度の出水に対応するため最低限の対策(隠れ水制)を設置
- 緩やかな覆土により水際アクセスを容易にし人が近づける工夫
 変化を許容する水際と川の流れに効果的な寄せ石などの工夫
- 住民の憩いと防災アクセス機能を持たせた通路を高水敷へ復元
 (自治振興センターからヘリポートまで)

No.5横断スケッチ

